

## 中3数学11月症候群

▶ 2023.11.1(水)

### 「11月症候群」の症状

中3の11月頃から、定期テストではいつも90点台をキープしてきたのに、模擬テストや実力テストでは、60点とか70点しか取れないということが起こります。これを”**中3数学11月症候群**”といいます。

もちろん、一生懸命に勉強して”テスト対策”はやってテストに臨んでいます。勉強すればするほど点数が下がってくる。これが”**中3数学11月症候群**”の特徴です。

### 「11月症候群」の原因

なぜ、こんなことが起こるのでしょうか。

原因は単純なことです。

ただ、テスト範囲が広がったというだけです。

一生懸命に勉強していても、絶対に全範囲をやりきることなどできないから、実際のところは”**適当**”なところだけしか勉強していないはず。

学校の定期テストでは範囲が狭いから、全範囲をきちんとやりきってテストに臨めます。

このテスト勉強方法で成功体験を積んできた人は、範囲が広がるとテスト対策として何を勉強していいのかが分からなくなります。「入試問題集」の問題を何題か解いて、テストに臨むことになります。これでは、勉強の効果などまず出ません。点はとれないのです。

### 「11月症候群」の対策

原因がわかれば、対策を立てることができます。

模試や実力テストというのは、入試傾向に合わせて出題されます。

だから、入試傾向にそった範囲にしぼってテスト対策をやれば、いままでやってきたテスト勉強の方法を活かすことができます。一生懸命に勉強すると確実に効果が出ます。

市販の「入試問題集」はまったく役に立ちません。それらは、山形県の入試傾向に沿って問題を載せているわけではないからです。ぜんぜん入試とは関係のない問題が多く載っています。そんなものを勉強していると時間の無駄になります。勉強すればするほど点がとれなくなる症候群に陥ります。

## 山形県の公立高校入試の出題傾向

－したがって、模試や実力テストの出題傾向－

山形県の公立高校入試の出題傾向に沿った範囲に絞ってテスト対策をすれば、入試はもちろん、それを前提として作成される模試や実力テストでも確実の効果がでます。

だから、まず、山形県では何が出題されたのかについての情報をもつことです。

そして、その傾向にそった基礎および過去問をやることです。

入試問題は”基礎”を組み合わせる解く問題です。だから、出題範囲の基礎をまずしっかりと身につけておくことから始めなければなりません。過去問だけやっても応用力は身につけません。

難しいし、教えてもらっても”なるほど”で終わり、それを活用する力など身につけません。

応用力とは基礎を組合せる力のことです。だから、組み合わせるべき“基礎”をもっていなければ、応用力など使えないのです。

## 数専ゼミの出題傾向の分析

数専ゼミのホームページには、山形県公立高校入試問題の出題傾向を詳しく分析した記事をお載せしております。

ここで山形県の公立高校入試（数学）傾向をざっくりと紹介すると、次のようになります。

- ①番問題 計算を中心とした小問で32点配点 教科書の範囲
- ②番問題 方程式・連立方程式の文章題（10点、やや難）  
関数（2次関数、比例・反比例）、作図問題（定規とコンパスの利用）  
その他（確率、データの分布、立体図形、資料の整理など）  
教科書の上級レベルの小問集
- ③番問題 1次関数（20点、超難）／動点問題、ダイヤグラム、水量変化など
- ④番問題 図形の総合問題（合同、相似、円、三平方の定理の融合問題、20点、超難）

詳細については、→ [Link：|山形県高校入試情報|](#) （トップページのヘッダメニュー）

配点が大きく、難しい問題である「方程式・連立方程式」、「1次関数」、「図形の総合問題」については、過去50年分の「出題内容、レベル、配点」についての詳細な分析が紹介してあります。

また、この分析表のどの問題であっても、数専ゼミで指導を受けることができます。

（数専ゼミは、50年間に及ぶ山形県の高校入試の指導を経験をもっています。）

### 数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: [suusen@seagreen.ocn.ne.jp](mailto:suusen@seagreen.ocn.ne.jp)